

## 症例報告

# 子宮平滑筋腫の特殊形における免疫組織学的考察 —異様平滑筋腫と神経鞘腫様平滑筋腫—

長岡中央総合病院、病理部：病理医<sup>1)</sup>、臨床検査技師<sup>2)</sup>

五十嵐俊彦<sup>1)</sup>、長谷川秀浩<sup>2)</sup>

背景：子宮の良性平滑筋腫瘍の特殊形に関する免疫組織学的考察が少ないことより、今回2亜形(①異様平滑筋腫と②神経鞘腫様平滑筋腫)について免疫組織学的検討を加えた。

症例内容：上記両亜形を示す子宮筋腫に関して、免疫組織学的検査と遺伝子学的検査(in situ hybridization (ISH) 検査)による検討を加えた。①異様平滑筋腫は多倍体で、細胞体の分裂が障害された合胞体と考えられた。細胞分裂期上はGoと判断された。②神経鞘腫様平滑筋腫は免疫組織学的に神経系と平滑筋系同定の抗体に陽性を示した。

結論：①異様平滑筋腫は細胞体の分裂が障害されたGo期の合胞体細胞と考えられた。②神経鞘腫様平滑筋腫は免疫組織学的に神経系と平滑筋系の両方の分化を示した。

キーワード：子宮筋腫、亜形、異様平滑筋腫、神経鞘腫様平滑筋腫、免疫組織学、in situ hybridization (ISH) 検査

## 背 景

組織学的に、平滑筋腫は多様な亜形を示す。①異様平滑筋腫はその細胞異型において、悪性の平滑筋肉腫と鑑別されることが重要である。異様平滑筋腫がその細胞異型に反して良性と判断される生物学的根拠が示されることが求められている。また、②神経鞘腫様平滑筋腫は、神経鞘腫とどのような細胞分化の差異があるのかの検討も求められている。今回、上記2病変を検討する機会を得たので、検討を加えて報告した。

## 症 例

症例は43歳で、子宮筋腫に対して子宮全摘出術+両側付属器摘出術が施行された。摘出物は270gで、肉眼的に通常の多発性子宮筋腫であった。筋腫核は最大径4cmで、変性、壊死、出血は認められなかった。通常のヘマトキシリン・エオジン染色(Hematoxylin-eosin, HE)検体の顕微鏡学的検査において、2亜形(①異様平滑筋腫と②神経鞘腫様平滑筋腫)を確認できたので、それぞれに関して、免疫組織学的検討を加えた。①異様平滑筋腫は、子宮体部漿膜下筋腫で、1.5cm大、肉眼的に通常の平滑筋腫様であった。HE所

見上、筋腫核全体が均一に、異様大型核の細胞が分布していたが、核分裂像は認められなかった(図1)。免疫組織学的検査上、抗ヒトKi-67抗原(細胞周期G1-M期に陽性、DAKO)による陽性細胞は2%未満で、異様筋腫核は陰性で、異型の無い筋腫核に陽性であった(図2)。また、XY染色体に対するISH検査上、異様筋腫核は多倍体であった(図3)。②神経鞘腫様平滑筋腫は子宮体部壁在性4cm大の通常型筋腫核内に1cm大の病変として混在していた。神経鞘腫に特異的な核の柵状配列が認められた(図4)。免疫組織学上、平滑筋に特異的な $\alpha$ -smooth muscle actin (DAKO)(図5)と神経系に特異的なS-100(DAKO)(図6)の両者に陽性であった。

## 考 察

①異様平滑筋腫は細胞体の分裂が障害されたGo期の合胞体細胞と考えられた。故に、細胞分裂に乏しく、細胞分裂数やKi-67陽性率により平滑筋肉腫とは容易に組織学的に鑑別される。②神経鞘腫様平滑筋腫は免疫組織学的に神経系と平滑筋系の両方の分化を示した。故に、神経鞘腫に診断において、神経鞘腫様平滑筋腫との組織鑑別上、平滑筋への分化の有無を免疫組織学的に検討することが必要である。

## 英 文 抄 録

### Case Report

Immunohistochemical analysis of uterine bizarre leiomyoma and neurilemmoma-like leiomyoma

Nagaoka Central General Hospital, Department of pathology; Pathologist<sup>1)</sup>, Medical technologist<sup>2)</sup>  
Toshihiko Ikarashi<sup>1)</sup>, Hidehiro Hasegawa<sup>2)</sup>

Background: There were few immunohistochemical analyses on uterine bizarre leiomyoma and neurilemmoma-like leiomyoma. On this study we reported on their immunohistochemical characteristics with several considerations.

Case: These two subtypes of uterine leiomyomas were studied by both immunohistochemistry and genetic examination with in situ hybridization (ISH).

(1)The bizarre leiomyoma was genetically polyploid and its cytoplasmic division was damaged. Cell cycle was mainly regarded as Go-phase.  
(2)Neurilemmoma-like leiomyoma was positive for both reagents against nervous system and smooth muscle one immunohistologically.

Conclusion: (1)The bizarre leiomyoma consisted of syncytial leiomyoma cells of Go phase. (2)Neurilem-

moma-like leiomyoma showed bi-directional differentiation to both nervous system and smooth muscle.

Key Words: uterine leiomyoma, bizarre leiomyoma, neurilemmoma-like leiomyoma, Schwannoma-like leiomyoma, immunohistochemistry, in situ hybridization (ISH)

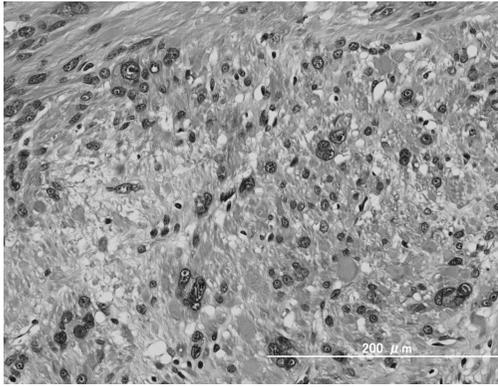


図 1. 異様平滑筋腫、HE 染色

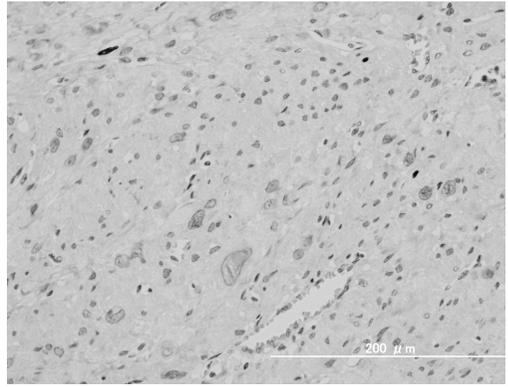


図 2. 異様平滑筋腫、免疫染色 Ki-67

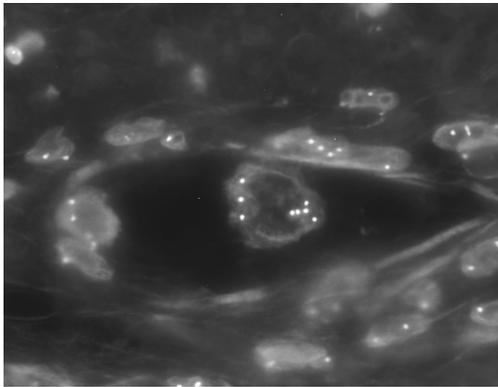


図 3. 異様平滑筋腫、ISH X 染色体

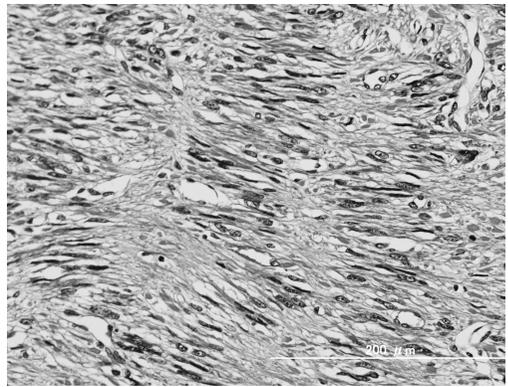


図 4. 神経鞘腫様平滑筋腫、HE 染色

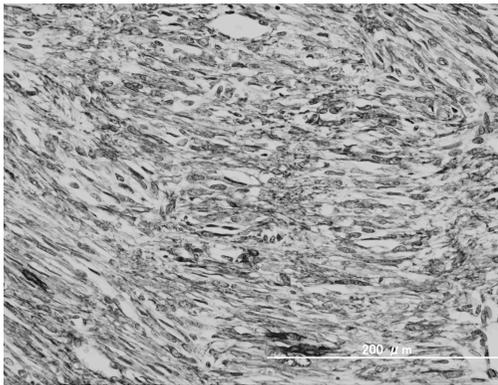


図 5. 神経鞘腫様平滑筋腫、免疫染色 α-SMA

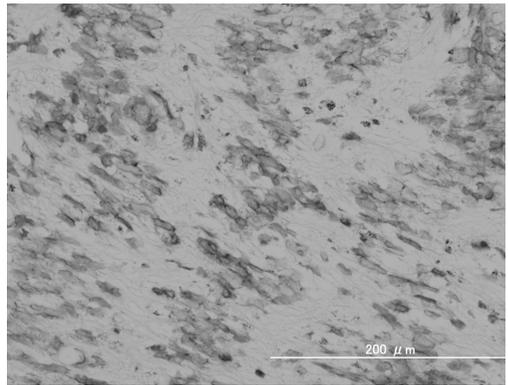


図 6. 神経鞘腫様平滑筋腫、免疫染色 S100

2008/12/24 受付 (2008-32)